



令和 2 年 7 月 1 日現在

世帯数	986 戸
人口	2,362 人
男	1,187 人
女	1,175 人

内田文化財・史跡めぐり



6 月 13 日 (土) 内田公民館

企画「内田文化財・史跡めぐり」に参加しました。「日頃何気なく歩いていて、気づかずに通り過ぎて由来を知らないものを訪ねて見ませんか」という案内チラシを閲覧板で見ると、一度参加してみたいものと、この地に越してきてから 30 年、ようやくその機会に恵まれました。しかし当日はあいにくの雨降りとなっていました。

予定を変更し、初めに公民館視聴覚室で、訪問場所の歴史や見どころを、丸山公民館長の子ども時代の思い出を交えながらお聞きしました。

事前学習を終え、いざ出発。雨脚も強くなってきた、常楽寺、御高札所、明善・内田学校の跡地、大神社、八幡原八幡社、桃昌寺、社宮司と車中からの巡りとなりました。知らずに通っている場所や改め

て意識してみる場所があり、車中からではありませんでしたが楽しむことができました。

常楽寺にある「空・風・火・水」を图案化した五輪の図の石碑。昔の子どもたちは小石を投げ天氣の願掛けをしたとか。境内には天然記念物に指定された、小笠原公お手植えの樹齢 350 年の松。花の頃のライトアップにはため息が出るほど美しい枝垂れ桜。鐘楼堂の並びの御堂には、成田山からの御不動様の分身が納められており、常楽寺にお参りすれば大本山と同じ御利益が得られると言われているようです。

桃昌寺もまた見事な枝垂れ桜が見られ、山門正面に祀られた六地藏と一緒にお出迎えしてくれる印象的なお寺です。

御高札場、明善・内田学校跡は普段車で行き来すれば見

落としてしまいそうに、ひっそりと跡を残していました。降り続く雨が当時への思いをより深くさせてくれました。

大神社、八幡原八幡社、社宮司は、それぞれ氏子たちが引き継ぎ大切に守ってきた様子のうかがえる佇まいでした。

そして最後は法船寺。お寺と共に寄り添ってきた樹齢 350 年の大銀杏、250 年の枝垂れ桜、およそ 1300 株の紫陽花などの木々が、それぞれ一番の花の時は外れてはいても、緑豊かに見事な姿で雨を受けていました。雨はさらに強まるものの、静かな境内で、広い本堂に響く雨垂れの音とご住職の温かく澄んだ声にしばし心地よくお話を聞き入りました。

法船寺は 1561 年に開山されたと伝えられ、御本尊は薬師瑠璃光如来

だそうです。両脇に日光・月光菩薩、十二神将、四天王などの像があります。仏画についての説明もしていただき、お話の後はそれらをゆっくりと拝見しました。寺宝である

落としてしまいそうに、ひっそりと跡を残していました。降り続く雨が当時への思いをより深くさせてくれました。



橋本雅邦画伯の「白衣観音座像」や、平成 9 年建て替えの折に造られた、弘法大師の一生を表した欄間も間近で拝見しました。普段の参拝では味わえない時間を過ごすことができました。

多くの寺社が点在する内田地区、長い間全てを守ってきた内田の人々の力を感じました。今回は南側のコースというのですが、北側コースは歩いて参加できればいいなと思いました。このところ以前より散歩姿の人が多くみられると、法船寺住職はおっしゃっていました。散歩コースの中に文化財・史跡を採り入れてみると良いかもしれません。今まで見えなかったものに触れ、楽しみが増えると思います。

第 7 町会 工藤ひとみ

「水遊びの広場」

牛伏川 草刈り

6 月 19 日、国重要文化財・牛伏川階段工のすぐ下流にある「水遊びの広場」周辺の草刈りの奉仕活動に取り組みました。町会連合会・町内公民館の役員 8 名が参加し、約 2 時間半ほど作業に汗を流しました。平成 30 年に階段工が完成 100 周年を迎えたのをきっかけに地元町会として環境整備活動を始めたものです。さらに明善小学校 1・2 年生の「川遊び遠足」が 7 月に予定されていることから行われました。

地域の重要文化財を通じた地域づくりの一環として、階段工の保全を行い未来に引き継ぐとともに、内田住民はもとより訪れる多くの人々が快適に利用できる環境づくりと地域防災意識の高揚が大切であると感じました。本年度は、牛伏川水利組合、長野県松本建設事務所、長野県砂防ボランティア協会、松本市等が草刈りを実施する予定です。



内田公民館長 丸山明良

ホタル学習と観察会



6月26日(金)に「ホタル学習と観察会」が内田公民館で開催され、今年は約30人の参加がありました。

はじめに、「松本ホタル学会」代表の藤山静雄氏(信州大学理学部特任教授)からホタルの生態のお話を伺いました。内田地区で私たちが観ることが出来るホタルは、「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」という種類だそうです。ゲンジボタルはポイントと明るく長く光りますが、ヘイケボタルはやや暗く線香花火のようにチカチカしながら光ります。ホタルの成虫は水を飲む以外は何も食わず、成虫の寿命は普通1週間余りだそうです。成虫は夕方から活動を始め、午後8〜9時頃に最もよく光ります。



先生のお話の後、塩沢川へ移動してホタルの観察を行いました。当日は風がやや強く、ホタルを見れるか心配されましたが、川の中の草むらにたくさんホタルを見つけたことができました。川の土手を越えてくるホタルもいて捕まえることもできました。ホタルを捕まえた子ども達がいそいそにホタルを見せてくれました。

ホタルは、かつては田舎のどこにでもいるごく普通の昆虫でしたが、環境が悪くなり、ホタルだけでなく、メダカもタニシも、カエルも、身近にいた生き物が、ほとんどいなくなってしまうそうです。内田地区はホタルや生き物がたくさんいる豊かな自然が残る場所です。これらの生き物がこれから暮らしていけるよう、身近にある良い自然を大切に残していきたいでしょう。

内田地区 一斉清掃の実施

4月19日以降延期になっておりました一斉清掃が6月28日朝6時より実施されました。

あいにく小雨の降る天候ではありましたが、各町会参加していただき、空缶・雑ごみなどの清掃で道路脇などきれいになりました。

見てみますとポイすてなど多く散見され、マナーの悪さなど感じた次第です。

今後定期的な実施により、我が故郷の風景など景観を大切にしていきたいと思っています。

第5町会 丸山 一雄



内田運動広場北側道路 町会長による草刈り



第5町会寺村常会による保留地草刈り



主要地方道
松本塩尻線



町会長による第2町会保留地の草刈り

つれづれ編集記

東京2020!

新型コロナウイルス感染がなければ、五輪・パラリンピックの開会が間近に迫り、祝賀ムード一色になっていたのではないのでしょうか。しかしコロナ禍により、東京大会は来夏に延期され、また今年の高校総体、高校野球等のスポーツ大会も中止を余儀なくされています。発出されていた緊急事態宣言は解除されたとはいえ、長年体育・スポーツに携わってきた私にとって大変憂慮する事態です。

「有効なワクチン開発がないと開催は難しい」、「第二波、第三波は必ず来る」等、専門家の意見もあります。五輪・パラリンピックには世界各地から選手、スタッフ、観客が集まります。世界の感染状況や逼迫した医療体制等を鑑みると、果して来夏東京大会は開催できるのか……「再延期は絶対はない」との事なので、延期に伴う諸経費の増加及び感染予防の観点から、大会運営も簡素化されるとの報道もあります。来夏東京大会がどのような形での開催になるかは予断を許さない状況ですが、これらの心配が杞憂になることを願うばかりです。

第9町会 青山 良成